

速報レポート

2002 年 9 月 24 日

ガス輸出国フォーラム閣僚会議が開催

第一研究部長 森田浩仁

ガス輸出国フォーラム (GECF) が OPEC 総会翌日の 9 月 20 日、同じ大阪の地で開催された。この日は第 8 回 IEF のイブにもあたる。2002 年のホスト国であるアルジェリア国 Chakib Khelil エネルギー大臣の呼びかけに応じ、非公式閣僚会議との位置付けではあるが、ボリビア、ブルネイ、イラン、インドネシア、リビア、オマーン、カタール、ロシアそしてベネズエラが参加した (参加国はプレスリリースによる)。

会議は Khelil エネルギー大臣のステートメントで始まった。この間プレス関係者の会場への立ち入りも許された。大臣は、GECF を組織した目的を、産ガス国間のみならず消費国との間における「協力、議論、そして経験や見解の交換のフレームワークを確立することにある」ことを繰り返し強調した。「ガスビジネスは産消国間の信頼と公平なリスク分担に基づく長期的に良好な関係が基本である。直面する変化とチャレンジに打ち勝つためにはこの関係の強化が必須であり、対話がさらに重要」と述べ、IEF に対する全面支援を表明した。

GECF は 2001 年 5 月、第 1 回閣僚会議にて発足に合意された。第 2 回閣僚会議 (2002 年 2 月) では、「ガス産業の発展と世界の需要に応えるためには、産消国間でさらなる協議と協力が必要」であることを宣言するとともに、「専門家プログラム」によるスタディの実施とあらたな欧州ガス市場のフレームワークを検討するための「円卓会議」の組織が決定された。今後「Contractual framework in the implementation of gas development projects」及び「Technological advances and costs associated with gas utilizations」と題するスタディが、それぞれイランとカタールにより実施される。前者はガスプロジェクトの探査・生産・マーケティングからファイナンスそして法的枠組についての包括的なスタディであり、後者は LNG プロジェクトのコスト削減についての経験をカタールと GECF 諸国とが共有するためのものである。さらには天然ガス需給モデルの見直しの最中であること、次回の「専門家プログラム」会議は 11 月に開催されることもステートメントで明らかにされた。

今回会議の 2 週間前にあたる 9 月 6、7 日には「円卓会議」がアルジェリアで開催され、欧州のガス輸入国、ファイナンス機関、EC 代表も参加した。議論の焦点は輸入依存を高める欧州の現状をとらえ、「需要動向、法的枠組整備の必要性、安定供給の確保、そして新規プロジェクトのためのファイナンス」など、4 点に絞られた。主関心事はファイナンスであ

り、市場の進化に伴なう多くの不確実性がこれまでのファイナンススキームの適応を難しくする可能性があること、このため法的枠組を適宜整備することの必要性などが議論された。またファイナンスを確かなものとするための長期契約の重要性についてもコンセンサスがえられた、とのことである。

今回の非公式閣僚会議は、「GECF は市場の安定を追及すること、産消国対話という枠組のなかで経験等を共有することが専門性の蓄積や相互波及効果の増幅・効率の向上につながること」などを確認し（プレスリリース）幕を閉じた。

今回合合は、直前になっても開催の主旨など明らかにされなかったのだが、このことから予測されたとおり、重要な論点を持つことのない顔合わせ的なものにとどまったようである。会場の雰囲気にはほどの緊張感を感じとることはできず、会議に要した時間も議長ステートメントを含めて 30 分ほどであった。リリースされた結論も、これまでに合意された枠組の内にとどまるものであったといえよう。

第 3 回ガス輸出国フォーラムは、2003 年のホストであるカタール国 Abdullah Bin Hamad Al-Attiyah エネルギー・産業大臣の招聘により、来年 2 月 4 日ドーハで開催される。

お問い合わせ：info-icej@tky.icej.or.jp